

最終段階を迎えた PLC 問題、二回目のパブリックコメントが今行われている。

いまひとつよく分からない PLC、3年前の研究会では屋外も含めた PLC 構想でスタートしたが、結果屋外での電波漏洩抑止が事実上不可能となり、屋内のみでネットワーク化の構想に重点が置かれた。屋外は FTTH を利用しようと言うことだ。

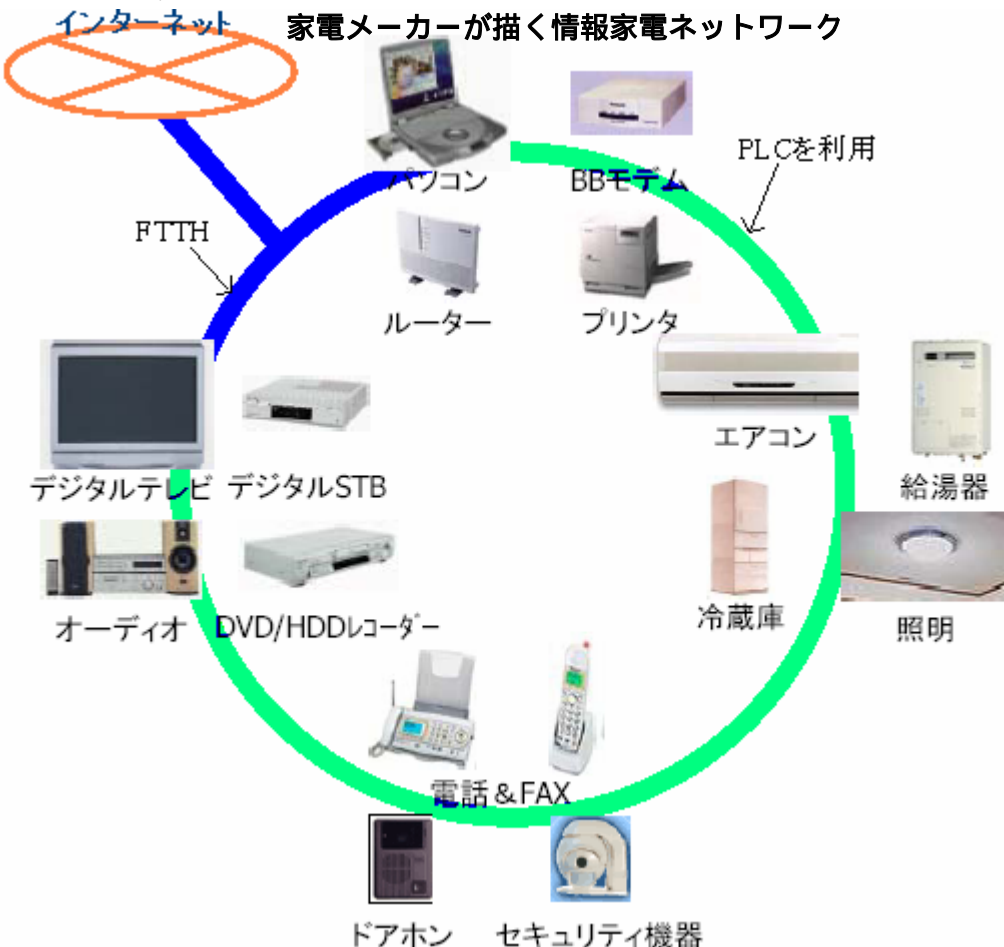
ところが、屋内になれば主役は情報家電のネットワークと言うことになるのだが、これには総務省のみならず、経済産業省も絡んでくる。そこで「情報家電ネットワーク化に関する検討会」が開催されている。ここでは情報機器相互間の接続方法、ソフト面などネットワーク化を推進するために行われたのだが、なぜか PLC の話は一切無い。

家電メーカーが必死になっているのはまさにこのネットワーク化でありその手段として、PLC 機器を組み込んだ家電品を作り出すことにある。今でも外部からエアコン、風呂、ビデオ録画、電話機などの遠隔操作が可能である。しかしこれを利用している人はまず居ない。理由は簡単だ、余分にコストがかかり且つめんどくさいからだ。

PLC はまさにこれを一挙に解決してくれる救世主なのである。そう、コンセントに今までどおり挿すだけで OK だからだ。しかしここで今問題にしている既存の通信に、すなわちわれわれが聴いているラジオ放送に障害があることから実証実験を繰り返しているわけだ。

先の展示会で実証実験の免許でありながら、実演をし違反ではないかといちゃもんをつけられた PLC モデムでの映像伝送。そこまでして実用化したい PLC なのである。宅内電灯線を使用した高速データ伝送技術で、ユビキタス (Ubiquitous)ホームネットワークを実現するために PLC アダプタ、PLC モジュールの開発に専念しているわけだ。

将来的には、外部とのインターネット接続は IPv6 を使い、宅内家電品同士は電源を挿すだけで高品位オーディオ・ビデオ伝送を実現したいのである。イメージを良くしようと HF-PLC とは言わず、HD-PLC (High Definition) と表現しているほどだ。



しかしここで考えてほしい、一体どれだけの市場背景があり実用化のメリットがあるのか。家庭内にあるテレビはまだアナログ、デジタルテレビは買ったが、ネット接続はしてない、データ放送？めんどくさい～。今のテレビでさえあれだけノイズを巻き散らかしており満足にラジオも聞こえない。

それなりの称号と技術力を持ったメーカーがなぜ今以上ノイズの出ない機器の開発ができないのか。挙句の果てはパソコン等の情報技術装置に適用される国際規格 CISPR22 の許容値ではどうかと答申する始末だ。フルパワーで広帯域に不要雑音を撒き散らす PLC に適用する規格ではない。研究会とはこんなことを言うようなザコ技術集団だったのかと思えてくる。

こんな姑息な課題で意見を求めるとは、こうなった限りは PLC そのものが実用にならない形に持っていきしかない。何年後かに実用化？された時は、新築の住宅には電気のコンセント同様 LAN ケーブルが引かれていることだろう。既にそうした家もある。